

舞阪町

地形概況

浜名湖口の今切の東部に形成された砂堆・堤間湿地・被覆砂丘からなり、集落は砂堆上にある。湿地は養魚場や宅地に改変された。弁天島は砂州を基盤に造成された高盛土の造成地であり、新川ぞいの養魚場も盛土と堤防で構造された。

地質概況

浜名湖口今切の砂礫堆と風成砂からなり、砂層が厚く堆積する。浜名湖に面した砂洲は埋めたと盛土により被覆されて造成地となっている。三方原台地南方の海岸平野の砂堆は海岸と平行してのび、堤間湿地は泥層の部分となる。

気象概況

年平均気温は推定 15.7℃と県内でも高く、冬は季節風によって乾燥し晴天日が多いため日照時間も県内では長い。年平均降水量は推定 2,000mm と県平均より少なく、4月から8月にかけて全降水量の約半分に達する。年間を通して平均 3m/秒程度の西風が多く吹く。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害を生じた。当地での震度は5～6である。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下で被害があった。当地での震度は6である。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4
全県下で被害があり、見付・浜松・舞阪は半ば潰れといわれている。震度は6である。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震 M=8.2～8.4
古い時代の地震であるので、詳細はわからないが震度は6と推定されている。

災害事例 津波

- 1960年5月24日（昭和35年）チリ地震津波
南米、チリ沖の地震による津波で、日本の太平洋岸で被害を生じた。当地での津波の高さは検潮器によって0.56mと計られた。
- 1946年12月21日（昭和21年）南海地震津波
紀伊半島西岸から四国沿岸で被害があった。当地の浜名湖外で高さ1.2m、湖内で高さ0.6mの津波があった。
- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震津波
三重県沿岸で被害が大きかった。当地では、津波の高さ0.6～1mであった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震津波
全県沿岸に被害を及ぼした。当地では流失8戸、潰家8戸、半潰家58戸、地引船9隻流失、破船30隻の被害があった。津波の高さは舞阪で5.6m、一里塚で2.5m、弁天島で3～4mであった。

- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震津波
 全県沿岸で被害を生じた。舞阪宿では昼8ツ時より大地震があり、津浪が来襲した。そのため宿中の家が破損し死者も少し出た。また、今切の渡しは幅がひろくなり、その後、外海からの波が荒くなって渡船が不自由になった。津波の高さは3～5mである。
- 1605年2月3日（慶長9年）慶長地震津波
 この津波の資料は少ないが、当地では高波打上げ、山際まで船を打上げた。釣船20余行方不明といわれる。浜名湖口の地形は現在とかなり異なっていた。津波の高さ5～6mであった。
- 1498年9月20日（明応7年）明応地震津波
 大地震と津波で一瞬のうちに舞沢は押し流され湖底に没した。難をのがれた36戸の人々は東方松原に居を求めて今日の舞阪を築いた。約300戸流失。浜名湖が津波で切れ海に通ずるようになった。今切という。津波の高さは6～8mであった。

災害事例 高潮

- 1979年10月19日（昭和54年）台風20号
 浜名湖に高潮が発生、床下浸水45戸の被害があった。検潮器の記録によると1mの潮位上昇があった。
- 1972年9月16日（昭和47年）
 検潮器の記録による潮位の上昇は1mであった。
- 1959年9月26日（昭和34年）伊勢湾(15号)台風
 浜名湖の高潮により、浜名郡で全壊38戸、半壊129戸、床上浸水697戸、床下浸水697戸の被害を生じた。舞阪の検潮器で計られた最大水位上昇は1.3mであった。
- 1953年9月25日（昭和28年）台風13号
 浜名湖に高潮が起こり、全壊10戸、半壊16戸、床上浸水57戸、床下浸水709戸の被害が出た。検潮器による潮位の上昇は1.1mであった。

災害事例 台風

- 1953年9月25日（昭和28年）
 全県下特に西部で風水害を受けた。当地では全壊10戸、半壊16戸、床上浸水57戸、床下浸水709戸の被害があった。